

施策 No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	都市整備課	主管課長名	
5-2	施策名	景観の良い住環境の保全	関係課	ヤマザクラ課、地域開発課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
	市民	①桜川市人口	見込値	人		37,653	37,269	36,647	36,500	35,897
実績値						37,653	36,794			
見込値										
					実績値					
見込値										
					実績値					
住環境の維持と景観の向上が図られ、空き家が利活用されている。		②今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合	目標値	%		50.0	50.0	50.0	53.0	55.0
						実績値	39.6	36.1		
			目標値							
						実績値	30.0	60.0	90.0	120.0
			目標値							
						実績値	45.0	48.0	50.0	50.0
	目標値									
				実績値	42.6	40.6				
	③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合	目標値	%							
					実績値	2	4	6	8	10
		目標値								
					実績値	2	16			
目標値										
				実績値						
目標値										
			実績値							
成果指標設定の考え方	施策の対象である市民の対象指標は、「①桜川市人口」とする。 施策の意図である「住環境の維持と景観の向上が図られ、空き家が利活用されている。」の成果指標は、「①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合」「②定住支援事業の支援件数」「③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合」「④景観や空き家に関する利活用の相談件数」とする。									
成果指標の把握方法と算定式等	対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合、③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合は、市民アンケートより求める。②定住支援事業の支援件数は、事業実績数より求める。④景観や空き家に関する利活用の相談件数は、実績件数より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)	
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した
背景・要因	①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合は、前年度39.6%に対し、本年度36.1%で3.5ポイント下回った。目標値には達していないが、定住支援事業の件数が伸びていることから今後住みやすい住環境と感じる割合が上昇するものと考えられる。 ②定住支援事業の支援件数は、前年度37件に対し本年度67件と前年度実績を30件上回った。一定数の申請が継続しており、定住促進助成金制度が確実に浸透してきていると考えられる。 ③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合は、前年度42.6%に対し、本年度は40.6%で2ポイント下回ったが、おおむね横ばい状態と思われる。国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されていることや、真壁のひなまつりなどが、マスメディアに多数取り上げられているためなどが考えられる。 ④景観や空き家に関する利活用の相談件数は、令和5年度は目標値4件に対し、実績値16件だった。チラシ等のPRにより市民の関心が高まっているためと思われる。
2) 成果目標の達成状況	
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った <input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった <input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った <input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った
背景・要因	①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合は、目標値50%に対し、実績値が36.1%で13.9ポイント下回った。目標値には達していないが、定住支援事業の件数が増加しているため住みやすい住環境であると感じる市民の割合が上昇するものと考えられる。 ②定住支援事業の支援件数は、目標値37件に対し、実績値が67件で30件上回った。今後も引き続き事業を進めていくことが期待されていると考えられる。 ③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合は、目標値42.6%に対し、実績値が40.6%で2ポイント下回った。景観の維持向上について、市内でも差があり、住民意識にも違いがあるためと思われる。 ④景観や空き家に関する利活用の相談件数は、目標値4件に対し、実績値が16件である。空き家の増加に従って今後も空き家に関する相談件数は増加していくと思われる。なお、空家バンクの成約件数は7件であった。

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
令和5年度に成果があった活動は、「用途廃止に伴う住宅入居者の移転事業」及び「景観まちづくり推進事業」である。 市営谷貝住宅除却予定のため測量設計委託契約を行った。また地権者及び隣接地の所有者との境界等確認を行った。次年度の住宅除却及び借地返還に向け地権者との打ち合わせを進めた。	令和6年度早期に入札を実施し、借地の返還を目指す。また、次に移転を進める住宅の選定を行う必要がある。 今後は地域の特性を生かした景観の維持向上を図るため、伝統的建造物群保存地区保存計画、歴史的風致維持向上計画とともに令和3年度に新たに策定した桜川市景観計画に基づいて各種事業を進めていく方針である。